

なぜ、神様、
なぜ?



いつ、神様、
いつ?

ジョイス・マイヤー

なぜ、神様、なぜ？

なぜ、神様、なぜ？

混乱から解放される方法

—— —

ジョイス・マイヤー

Unless otherwise indicated, all scripture quotations
are taken from the:

SHINKAIYAKU BIBLE.

Copyright © 2004 by Inochi No Kotoba Sha
(used by permission);

the Japanese Living Bible (リビングバイブル)
Copyright© 1978, 2011, 2016 by Biblica, Inc.®
Used by permission. All rights reserved worldwide.

Colloquial Japanese (1955) (JA1955)

ALIVE訳

© 2014 Bible League International. All rights reserved.

Copyright © 2019 by Joyce Meyer
All Rights Reserved.

Translated and printed by Lifehouse Media in Japan.
<http://www.mylifehouse.com>

For more copies of this book and other resources
please contact the Joyce Meyer Ministries Japan
team at info@joycemeyer.jp .

【日本語版への追記】

著者の意向により、本書における聖句の引用にはAMP訳が用いられています。その性質上、どうしても既存の日本語訳では補い切れない表現が多いため、そのような場合には「～訳より一部強調」という形で、AMP訳からの直訳となる日本語を□内に補足しました。また、引用聖句全体を、翻訳者による日本語への直訳という形で対応している箇所もあります。

目次

まえがき	vii
1. 混乱の原因は？	1
2. “頭で全てを理解しようとする”から解放される	5
3. 信仰の態度	9
4. 恵みはその日その日に与えられる	13
5. 「～だったらよかったのに。」	17
6. 「もしも～なら、どうする？」	21
7. 頭に流されないで	27
8. “頭で全てを理解しようとする”に騙されないで	33
9. 混乱は喜びを奪い取る	39

まえがき

ヨハネ10:10(JCB訳)では、
「強盗は、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするために来ます。
しかしわたしが来たのは、いのちをあふれるほど豊かに与えるためです。」
とあります。

悪魔は、あなたの喜びを奪い取りたいと思っています。
だからこそ、あなたが人生を楽しむことを邪魔しようとしてくるのです。

しかし、この本を通して、
あなたが「神様に、神様でいてもらう」ことを
学ぶことができるようにと祈っています。

イエスが死んでくれたおかげであなたが持つことができる
あふれるほどの平安と喜びを、
あなたが楽しむことができますように。

第1章

混乱の原因は？

あなたは混乱していますか？今、あなたの人生で起きていることで理解できないことがありますか？

それはもしかしたら、あなたの過去のことかもしれません。「なぜ、自分の人生はこうでなければならなかったのだろう。」と理解できていないかもしれません。「神様、なぜ私なの？どうして思い通りにならなかったの？なぜこのような結果になってしまったの？理解できないわ!」と、そのように考えているかもしれません。

多くの人たちが混乱していて、途方もなく苦しんでいることに私は気が付き始めました。実際に、私自身も過去にそのような経験があるので、混乱がどれだけ人を悩ませ苦しませるかをよく知っています。私は、なぜ人は混乱するのか、また、どのようにその混乱を防げるかについて考え始めました。

ある夜、カンザス・シティで開催した集会に、約300人が参加していました。そこで、神様の導きを感じたので、どれくらいの人か人生の問題について混乱しているのか尋ねてみました。すると驚くこ

なぜ、神様、なぜ？

とに、2人以外の全員が手を挙げたのです。そして手を挙げていない2人のうちの1人は私の夫でした。

私が正しければ、300人中の298人が混乱していたこととなります。99.3%ということです。様々なグループで確認したところ、ほとんどの場合、同じような結果になったのです。もちろんパーセンテージは様々でしたが、全ての結果で多くの人たちが混乱していることがわかったのです。

私はこのことについて思いを巡らせ、混乱の原因は何かと神様に尋ねました。神様はこう答えました。「全てを理解しようとするのをやめるように教えなさい。そうすれば、混乱は無くなります。」神様からのこの答えのおかげで、私は混乱から解放されたのです。

もちろん自分が理解できないことはまだたくさんありますが、今では明らかな違いがあります。神様は、全てを理解しようということから私を解放してくれたのです。神様は、私を”頭で全てを理解しようとする”こと(ここでの”頭で全てを理解しようとする”は2コリント10:5で書かれていることです。)から救ってくれました。だからこそ私は、人生で理解できないことの答えを見つけようとするのをもうやめたのです。

なんだか簡単のように聞こえますよね?“頭で全てを理解しようとする”ことの誘惑を拒否するだけで、混乱の苦痛から完全に自由

第1章 - 混乱の原因は？

になることができるのです。一度立ち止まり、そのことについて考えてみればわかるはずです。この全ては”思考”と呼ばれる場所で起こることだからです。

私たちの思考はサタンとの勝ち負けが決まる戦場のようなものです。「神様は無秩序や混乱の神ではなく...」(1コリント14:33 JCB訳)とあります。混乱させるのはサタンです。悪魔は私たちに神様のこととは異なる理論や説を唱えてくるのです。2コリント10:4,5(AMP訳)では、この戦いに勝つために捨てなければいけない考えは”頭で全てを理解しようとする”ことだと教えています。その聖書箇所にはこう書かれています。

「悪魔の要塞を打ち破るために、人間の手によらない神の強力な武器を使います。この武器は、神に逆らうあらゆる高慢な議論(頭で全てを理解しようとすることや理論など)と、人々の目から神を隠している、あらゆる壁を打ち砕きます。この武器を用いて私は、反抗する者を捕虜として神に連れ戻し、回心させて、キリストに従わせませす。」

2コリント10:4,5 (JCB訳より一部強調)

もし聖書が、「すべてを理解しようとするべきではない」と教えるのであれば、私たちはそれに従う必要があります。頭で全てを理解しようとする考えが私たちのところに来た時には、自分の考えをイエスに従わせるべきです。これらの聖書箇所いわく、私たちは戦い

なぜ、神様、なぜ？

の中において、その戦いの大部分は精神的な戦いだということです。サタンは私たちの思考に攻撃を仕掛けてくるのです。

この聖書箇所によると、サタンからの攻撃に対して私たちは”想像”することで対処しているということです。あなたは真実ではないことを想像したり、もしくは頭の中で不適切なイメージを見たりしたことがありますか？理論とは、自分の問題をどのように解決するかについての様々な計画やアイデアであり、頭で全てを理解しようとするのは、頭を使って厳密に調査して、神様にしかわからない答えを見い出そうとすることなのです。

この章をまとめると、“混乱の原因は、神様にしかわからない答えを探そうとすることである”ということです。何らかの理由で、その答えは神様にしかわからず、神様はそれを教えていないのです。

第2章

"頭で全てを理解しようとする"から解放される

私が頭で全てを理解しようとする"から解放されたことの素晴らしさをあなたが本当に感じるためには、まず、私が以前どのような考えを持っていたかを理解しなければいけません。

人生の早い段階で、私は、"誰にも頼らず、独立し、自分のことは自分でどうにかすることが、もっとも安全でベストな生き方である"と結論付けていました。

誰かに助けを求めることが少なければ少ないほど、自分をもっと良くなれると理解していたのです。そうすれば、誰にも借りを作らずに済むからです。

私は傷つくことに疲れていたのです、このようなスタンスでいれば、痛みから守られると考えていたのです。

もちろん、私は間違っていました。しかし、間違っていることに気が付いて、それを認めるまでには長い時間がかかりました。

なぜ、神様、なぜ？

長い時間がかかってしまったため、その間の年月を、私は心配したり、頭で全てを理解しようとすることで頭をいっぱいにしたり、理解しようとしたり、理屈を並べたり、想像したり、思い悩んだり、イライラしたり、気分を落ち込ませたりしていたのです。

私たちが独立しようとするほど、神様や他の人を信頼することは難しくなります。

神様から離れて自分自身を頼るのではなく、神様を信頼して頼ることを神様は私たちに願っているのです。イエス・キリストに頼れば頼るほど、頭では理解できない物事をもっと神様に委ねることができるようになります。神様が答えを知っているということを知り、そして、正しい時に、神様がそれを明らかにしてくれるのです。

この態度を、受け身の態度と勘違いしないでください。信仰の面において、私たちは決して受け身になるべきではありません。もし、あなたやあなたの友だちの人生で理解しがたいことが起きてしまったならば、必ず祈りから始めなければいけません。聖霊に求めるのです。理解を与えてくれるように、教えてくれるように、光をもたらしてくれるように、啓示をもたらしてくれるように、聖霊に求めてください。そして、聖霊がそうしてくれるまで待ち望むのです。聖霊があなたに理解を与えてくれる時は、神様のタイミングであることを知っておいてください。[1]

第2章 - “頭で全てを理解しようとする”から解放される

心の中で質問や疑問が出てきた時、きっとあなたはしばらくそのことについて考えるでしょう。しかし、それと同時に混乱を感じ始めるのです。そのような時は、神様が答えを持っていることにシンプルに感謝しましょう。“この質問や疑問の答えは、神様が知ってくれている”ということを自分は知っていて、それに満足していることを神様に伝えてください。そして、神様の正しいタイミングで、その答えを示してくれることを信頼していると、神様に伝えましょう。

私が今まで話してきたこの態度を、“自分のものとして”あなたが身につけない限り、あなたが“頭で全てを理解しようとする”と混乱から自由になることは決してありません。ちなみに、この態度は、信仰の態度なのです。

[1]

「いつ、神様、いつ?」という神様のタイミングについての本もあります。

第3章

信仰の態度

神様から受け取る手段として、私たちは”信仰”を挙げると思います。エペソ2:8,9には、"恵みによって、信仰を通して、私たちは救われる。"と書いてあります。ヘブル11:1(口語訳)には、「信仰とは、望んでいる事がらを確認し、まだ見えていない事実を確認することである。」と書かれています。信仰について私たちは様々な形や方法で、説明したり定義したりすることができます。しかし、信仰をととてもシンプルな視点で見ることができると私は信じています。そして、この方法で、私たちが信仰によって動いているかどうかも見分けることができます。それはつまりどういうことかと言うと、”信仰には態度がある”ということです。

信仰の態度が、私たちを安息へと導き入れてくれるのです。ヘブル4:3には、"神様の安息に入ることができるのは神様を信じる人だけである。"と書いています。ヘブル4章では、神様の安息(覚えておいてください。信仰こそが、安息への入り口です。)の中に一度入った人は、疲労感や労働の痛みから解放されるとも書かれています。 (10節より)頭で全てを理解しようとすることは労力を費やさせるものであり、あなたを安息ではなく、混乱へと導くでしょう。信

なぜ、神様、なぜ？

仰の態度とは、「神様が私を心配してくれているから、私は思いわずらいをすべて神様にゆだねる。」と仰のことです。(1ペテロ5:7より)この聖書箇所はつまり、「起きている全てを知る必要も、理解する必要もない。そのことを知ってくれているお方を私は知っているからこそ、それで満足する！」という意味です。(著者の言い換え)神様がしていることを必死で理解しようとする代わりに、神様と関係を築くための時間を過ごしてください。

信仰の態度は、くよくよ心配をせず、明日のことについて不安になることはありません。なぜなら、どこに向かっていたとしても、何が起るかわからない明日でさえ、そこはイエスがすでに通った道だということを、信仰は理解しているからなのです。覚えておってください。イエスは、昨日(過去)も今日(現在)も、いつまでも(未来)、存在している方です。彼は世界の基盤が出来上がる前からいました。彼は天地創造の時に手を貸したのです。あなたが産まれる前から、彼はあなたのことを知っていました。あなたのお母さんのお腹の中で、彼の手を使ってあなたを造ったのです。イエスは全ての始まりに存在していただけではなく、彼(イエス)こそが始まり(アルファ)なのです。

では、終わりはどうなのでしょう？イエスが、何か物事を始めて、途中で辞めてしまうのでしょうか？そんなことはありません！イエスは、始めたことを必ず終わらせるのです。(ヘブル12:2、ピリピ1:6)彼は全ての終わりにも存在するのです。彼(イエス)こそが、終わり(

第3章 - 信仰の態度

オメガ)なのです。このように言えると思います。”彼(イエス)はアルファとオメガ、つまり全ての始まりと終わりであるだけでなく、彼はまた、”その間の全て”なのです。”

イエスの再臨がまだまだ先だとしたら、私にも、あなたにも、これからたくさんの明日がやってきます。「明日」何が待ち受けていようとも、神様は”明日”を知ってくれている方で、私は神様の手の中にいる」ことを知っていることで、私は安心することができます、幸せを感じることができます。

信仰の態度は、その日その日を精一杯生きるのです。

第4章

恵みはその日その日に与えられる

“頭で全てを理解しようとする”は、私たちを過去に縛りつけたり、または未来に向けて急かせようとさせます。英語版の聖書では「“今”、信仰とは..」(ヘブル11:1 AMP訳からの直訳)と書いていることを、忘れないでください。もし過去の中で生きようとしたら、人生はとても難しくなります。神様は自分自身のことを「わたしは”だった”」(全能の唯一の神”だった”)とは言っていません。未来に生きようとしたら、明日何が起きるか知ろうとすることも、人生はとても難しくなります。神様は自分自身のことを「わたしは”だろう”」(全能の唯一の神に”なるだろう”)とも言っていません。しかし、もしあなたが、今生きている一日一日を精いっぱい生きるなら、人生はもっと楽になるでしょう。神様は「わたしは”ある”」(私は全能の唯一の神”である”)と言ったのです。(出エジプト3:14より)

嵐の中、イエスは弟子たちに「何を恐れているのですか？勇氣を出して。わたし”である”！」と言いました。(マタイ14:27より 著者による意識)分かるでしょうか？イエスはつまりこう言っているのです。「イエス(わたしは”ある”)は今この瞬間、あなたのためにいる。イエス(わたしは”ある”)がいる時、全てが良い方向に行く。」今日を精い

なぜ、神様、なぜ？

っばい生きてください。昨日や明日のことを心配することは、“今日”を奪ってしまいます。今日の分の恵みが、あなたには与えられているのです。明日の恵みは明日にならないと来ないのです。そして昨日の恵みは昨日で使い切っているのです。恵みは、使用可能なものです。恵みは、聖霊の好意であって、力なのです。私たちがすべきことを成し遂げるために、助けてくれるのです。いわば、恵みを前もって受け取って、後のために貯めておくことはできないのです。

荒野にいたイスラエル人たちのストーリーを覚えていますか？神様は超自然的な力で、毎日、彼らに必要な食料を天から降らせていたのです。彼らはそれを“マナ”と呼びました。私たちのように、彼らは今日十分にあるものが、明日も十分にあることを確認したいと思いました。神様が次の朝に奇跡を起こすのを忘れた時のためを思って、明日のための保証が欲しかったのです。しかし神様は、安息日以外の日には、その日に必要な分以上のマナを集めることを禁じました。もし彼らがその日に必要な分以上のマナを集めたとしても、余分な分のマナは腐ってしまったのです。

一度立ち止まって、このことについて考えてみてください。このストーリーは、私たちの日常生活に適用することができる力強い例えです。頭で全てを理解しようとしたり、論理的に考えている時、くよくよ心配している時、あなたは明日の分の“マナ”を貯めようとしていませんか？天にいるあなたのお父さんである神様は、明日のことについて信頼してほしいと願っています。箴言3:5(JCB訳に一部強調)

第4章 - 恵みはその日その日に与えられる

には「(心と考えの全てをもって)とことん主に信頼しなさい。決して自分(の理解)に頼ってはいけません。」と書いてあります。

このような例え話を讀んだことがあります。ある2人の男性が、イエス・キリストについて証(あかし)したために牢屋に入れられてしまいました。彼らは、翌朝に火あぶりの刑に処せられる予定でした。2人の男性のうちの1人は、年を重ねた聖職者で、神様の道に熟練した人でした。もう1人は、神様をとても愛していた若い男性でしたが、あまり神様の道に熟練はしていなかった人でした。

日が暮れた頃、牢屋が暗くなってきていたので、若い方の男性がロウソクに火をつけるため、マッチを擦りました。その途中、彼は指を火傷してしまったのです。彼はとても動揺し始め、「指を火傷するだけで、こんなに痛いならば、火あぶりの刑なんて絶対に耐えられない!」と恐怖のあまり叫び始めたのです。年を重ねた聖人が若い青年にこう言って慰めました。「青年よ、神様はあなたに指を火傷するようには言わなかった。だから、その痛みに耐えるための恵みを与えなかったのだよ。神様は、あなたに命を犠牲にしなさいと言っている。つまり、朝が来れば、そのために必要な恵みを与えられることを、あなたは確信することができる。」

このことから分かるように、この年を重ねた熟練の聖職者は、神様との長年の歩みから、朝が来るときには、神様の恵みが必ず与えられることを知っていたのです。だからこそ、彼は“今”の中で安ら

なぜ、神様、なぜ？

いでいたのです。なぜなら、彼は”今”に信仰を持っていて、そして明日には”能力(恵み)”が与えられると信じていたからです。

この例から分かるように、信仰は、私たちを”頭で全てを理解しようとする”から私たちを解放してくれます。信仰は未来を解き明かす必要はありません。信仰はただ安息するのです。なぜなら、神様が明日のためのマナ(必要な物)を与えてくれると知っているからです。過去に起きたことや、これから起きることについて、頭で全てを理解しようしたり、論理的に考えて解き明かそうとすることで一日を無駄にしないようにあなたを励ましたいです。

このような文章を読んだことがあります。「昨日”は支払い済みの小切手のようで、明日”はこれから支払われる約束手形みたいなものです。そして、今日”は、今手元に使える現金みたいなものです。」そうであるならば、ぜひ賢く使いましょう！

第5章

「～だったらよかったのに。」

使徒パウロは、過去のものを手放し、先にあるもののために前に進んで行くようにとピリピ人への手紙の中で教えています。(ピリピ 3:1より)私たちが過去のことを考えていなかったとしたら、どのように過去にしがみついていることができるでしょうか？過去のことばかり考えることによって時間を浪費することもできますが、私たちは今日のことのためにそのエネルギーを使うべきだと私は信じています。

過去にしてしまった間違いを何回も思い出してしまっていますか？「なぜ、私はあんなことをしてしまったのだろうか？」「あんな事言わなければよかったのに。」「あんな事をしなければよかったのに。」「あの時にああしていればよかった。」などと思う時がありますか？そのような「ああしておけばよかった..」や「…だったらよかったのに...」という考えに気を付けてください。

もしかしたら、あなたはすべき方法で物事を行っていたのに、それでも悪い結果になってしまったと思っているかもしれません。もしかしたら、今このように考えているかもしれません。「なぜ、こんなことになっちゃったの？なぜ、神様、なぜ？理解できないよ！答えが知りたい！答えがわからないなんて耐えられない！もう何がなんだかわからないよ！」

なぜ、神様、なぜ？

あなたはそのように考えていませんか？単刀直入に言ってもいいでしょうか？あなたは自分自身を苦しめています！私も同じように長年の間、自分を苦しめていましたが、それには意味が無いのです！過去に起きた出来事について、私が理解できなかったこと、また今でも理解できていないことはたくさんあります。しかし、過去に起きたことを手放して、先にあるもののために前に進んで行くように神様が私に教えてくれたことにとっても感謝しています。今現在、そのおかげで私はとてつもなく大きな平安を味わっています。

イザヤ26:3には、「神様は、いつも神様に考えを集中させている人を完璧な平安に留まらせてくれる」とあります。頭で全てを理解しようとして忙しく考えていたり、全ての答えを解き明かそうとしている人が完璧な平安に留まるとは言っていません。

不公平で不当に思えることは数多く起きてしまいます。あなたの過去もそうだと思いますが、私の過去にも不公平な出来事がたくさん起きました。そのせいで私はたくさんの傷や痛み、問題を抱えることになり、それらを乗り越えるには何年もかかりました。

何年もの間、私はケンカ腰な態度を持ちながら、自分への哀れみに浸っていました。「なぜ、あんなことが私に起きてしまったのか。」と原因を突き止めようとして苦味と怒りを持っていたのです。「なぜ神様は私を助けてくれなかったの？」「なぜ誰も私を助けてくれなかったの？」

結局、私のことを惨めにしていたのは私自身であったことに気付いたのです。過去に起きてしまったことを頭で理解しようとして、私は“現在”を無駄にしていたのです。ある日神様は私にこう言いまし

第5章 - 「～だったらよかったのに。」

た。「ジョイス、惨めなままでいるか、力強くなるか。どちらがいい？」

時には、あなたは過去の栄光の中で生きてしまっているかもしれません。もう一度成功したいという気持ちから、過去の成功を思い出して、どのように成功できたのかを頑張っ て解き明かすことに囚われてしまいます。私は昔、過去の栄光によく浸っていました。それすら、あなたが前に進むことを邪魔してしまいます。過去は過去です。過去の勝利も、過去の敗北も、もうすでにそれは過去のものです。過ぎ去って終わってしまった事なのです。だからこそ、“今日”を精一杯生きてください！

楽しい思い出には何も問題はありません。しかし、過去の勝利や栄光に居座り続けることは大きな間違いなのです。人生で起きたそれぞれの出来事の後には、しっかりと幕を閉じてください。その出来事をそこに置いていき、神様があなたのために用意している次の事のために前に進んでください。ピリピ3:13(JCB訳に一部強調)では「過去に執着せず、前にあるものを望み見(るように)...」とあります。

何回も言いますが、「…だったらよかったのに…」という考えには気を付けてください。もし悪いことが起きたなら「あんなことしなければよかった..」と考えてしまいます。もし良いことが起きたなら、「またこのような良いことが起きればいいのに。」と考えてしまうこともあります。

過去のことは手放してください！そして、過去のことを理解しようとするのはもうやめてください！今、前に進んでいく決断をしましょう。

第6章

「もしも～なら、どうする？」

あなたの思考を攻撃するために悪魔があなたに射かけてくるもう一つの矢(エペソ6:16で言われる火矢)は、恐れを引き起こす「もしも～なら、どうする？」という考えです。

「もしも、収入が無くなったらどうする?」「もしも怪我してしまったらどうする?」「もしも重い病気になってしまったらどうする?」「もしも仕事を失ったらどうする?」「もしも一生独りぼっちになってしまったらどうする?」これはどうでしょうか。「もしも神様から何のことも受け取れなかったらどうする?」「もしも間違いを犯してしまったら?」「もしも失敗してしまったら?」「もしも人に笑われたらどうする?」「もしも拒絶されたらどうする?」このようなリストは延々と続きます。この考え方のパターンがわかったでしょうか?

「もしも～なら、どうする?」というのは、頭で全てを理解しようとするを使って全てを理解しようとする一つの手段です。そして、この「もしも～なら、どうする?」は、多くの場合、幸先の悪い未来を見せてくる一連の考えから続いて来るのです。この「もしも～な

なぜ、神様、なぜ？

ら、どうする？」は私たちの将来の事について考えさせ、起きてもない出来事について恐れを感じさせてきます。さらに、恐れのおかげに私たちが自ら起こさない限り、おそらく実際には絶対に起こりそうもない事について恐れを感じさせるのです。

「もしも～なら、どうする？」という考えは、「～だったらよかったのに。」と同様に混乱を引き起こします。これらは、私たちが浸ってはいけない考え方なのです。これらの考えは、2コリント10章でいわれる"神に逆らうあらゆる高慢な議論"、つまり"自分の頭で全てを理解しようとする事"に含まれ、私たちはこれらの考えを全て投げ捨てる必要があります。

現実にあったことを例えとして話しましょう。ある時、私たちのミニストリーは、集会を毎週行うことができる場所が必要になりました。5年以上集会のために私たちが使っていた場所は、2年後には取り壊され、代わりにショッピングモールが建つ予定になっていたのです。

私たちが探していたのは、オフィスを併設できて、毎週集会が行える場所です。また、授乳室やキッズミニストリーのための場所が確保でき、様々なエリアで成長するためのスペースがある場所でした。その上、300台ほどが止められる駐車場付きの場所を探していたのです。

第6章 - 「もしも～なら、どうする？」

そんな物件を見つけるのはそこまで難しくないと思う人もいるでしょう。しかし、実際のところは想像以上に難しかったのです。私たちはすでに2年ほど探していたのです。思いつく場所は全て探し回ったのですが、全く見つかりませんでした。私たちは行き詰ってしまったように思えました。

そこで悪魔は火矢を放ち始めたのです。「もしも2年が経って、場所が決まらなかったらどうするの?」「安くて空いていた時に、あの場所を買っておけばよかったのに。そうしたら今の状況に陥らずによかったのに。」「もしも神様のことを見逃してしまったらどうする?」「この類のことについてもっと知っていたらよかったのに。そうしたらどうするべきかわかっていたのに。」「もしもどこかの場所を買っても、必要な許可書をもらえなかったらどうする?」「高い物件を買ってしまった後に、もっと安くてもっと良い場所を見つけてしまったらどうする?」と悪魔の火矢は色々なメッセージで私たちを攻撃し始めたのです。

場所探しの問題が目の前に立ちはだかる前に、神様がすでに頭で全てを理解しようとする事から私を解放してくれていた事に私は感謝しています。もし、この状況が数年早く起きてしまっていたら、私はきっと自分自身を苦しめて、混乱させ、そして全てを理解しようとする事で恐れに満ちあふれていたでしょう。

今では、私たちの一步一步は、神様からの導きに従って進めら

なぜ、神様、なぜ？

れるものだと信じていることができます。(詩篇37:23より)私たちは祈り、そして神様を信頼しているのです。そして、神様の思いを求めています。そうすることで、神様は私たちを正しい時に正しい場所に導いてくれるのです。神様は早すぎることもないし、遅すぎることもありません。これまで、たくさんの物件交渉をしましたが、私たちがどんなに頑張っても、交渉はうまくいきませんでした。しかし、正しい時に、神様は私たちが借りることができる素晴らしい場所を与えてくれたのです。そして、神様は一步一步、必要を満たし続けてくれます。

今改めて見ると、どうしてそれらの状況が正しくなかったのかを理解できます。でもその当時は、自分の力で頑張っても物件を見つけようとしているのに、何もかもうまくいかないように見えていたのです。神様のタイミングでない時に何かを起こそうとしても、何もうまくいかないのです。

神様はご自身が何をしているのかちゃんと分かっています。全てのことが神様の手の中にあるのです。私がこれから何をするのかを自分でわかっていなくても、全てを知ってくれている神様を私は確かに知っているのです、私はリラックスすることができます。

あなたはどうですか？あなたはイエスを知っていますか？知っているのであれば、あなたは全知全能で、全ての場所に存在している神様のことを知っている事になります。神様は強力で、全てを知つ

第6章 - 「もしも～なら、どうする？」

ていて、いつでもどこにでもいるのです。

だからこそ、リラックスしてください！もしもあなたが頭で全てを理解しようとして、そして全てがわかったと思った時に、神様が全く違うものを示すことであなたを驚かせたらどうしますか？そうしたら、あなたが頑張って理解しようと費やした時間は全て無駄になってしまいます。頭で全てを理解しようとすることや混乱に、もうかなりの時間を費やしていませんか？

ぜひこの考え方を受け取ってください。

「もしも、あなたが、ただリラックスして、神様がしたいことを神様にしてもらったら、どうしますか？」

第7章

頭に流されないで

ある時私は、自分の人生でもっと大きなスケールで活用できる優れた判断力と識別力のために祈っていました。実はそのことについては、しばらくの間祈っていたのです。しかしその時、聖霊が私に語りかけました。「ジョイス、頭で全てを理解しようとするのを捨てなければ、優れた判断力を働かせることは決してできない。」

1コリント2:14-16には、人間的なものは霊的なものを理解できないとあります。神様はこの聖書箇所を通して、大事なメッセージを伝えています。もし霊が優れた判断力を働かせようとしているのに、頭で論理的に理解しようとしてしまったら、何の進展も無いということです。それはなぜでしょうか？1コリント2:14にある通り、人間的なものは霊的なものを理解できないからです。霊的なものは霊的に理解されるべきものだからです。あなたの霊は、あなたの頭が知らないことを知っているのです。

あなたが神様の子どもとして生まれ変わったのであれば、あなたの人間の霊のなかに聖霊が宿ります。聖霊は私たちにたくさん

なぜ、神様、なぜ？

ことを伝えようとはしますが、私たちが人間的なものによって動いてしまうので、聖霊が伝えたいことを私たちは拒絶してしまうのです。

一つ例を挙げましょう。ある朝、私は毎週行なっていた”Life In The Word(神様のことばにあるいのち)”の集会に向かうために支度をしていました。その時に私は、その集会でミニストリーを手伝っている女性について考え始めました。彼女がどれだけ忠実な女性かについて考え始めたのです。私の心の中で、彼女をどうにか祝福したいという強い思いが湧き上がってきました。

「神様、ルツ・アンさんのために私は何ができるかしら？」と神様に言いました。その時に、“クローゼットにかかっている新品の赤いドレスを彼女にあげる”という強い思いを感じ取りました。というよりも、心でただ確信したのを感じました。そのドレスは3ヶ月前に購入したばかりでとても気に入っていたのですが、着ようと思うたびになぜか毎回着る気が失せてしまっていたのです。お店で買った時と同じ状態でプラスチックの袋の中に入れて、まだ値札がついたままでした。ルツ・アンさんは私より少し大きめの女性だったのですが、面白いことに、このドレスのサイズは私がいつも着るサイズより一つ大きめのものだったのです。私のサイズが売っていなかったためでした。ドレスのスタイルから、私が着ても少し大きいサイズと気付かれなかったのです。

私の霊の中で、彼女にそのドレスをあげるという強い思いが湧

第7章 - 頭に流されないで

き上がった時、私の頭の中では「でも神様、あのドレスはまだ新品なのに。」と思っていたのです。お気づきだと思いますが、私の頭の中では、人間的なものが聖霊と戦っていたのです。しかし、これは何の意味もない戦いなのです。「神様、新品のドレスをあげるなんて言うわけないですよ？」と神様に言いました。しかし実際のところ、神様の寛大さと卓越した素晴らしさという神様の性質を考えたら、着古したドレスではなく、新品のドレスをあげるようにと神様が私に言う方が現実味があります。

2サムエル24:24で、神様のための祭壇を築く事についてダビデ王はこう言いました。「...何の犠牲も払わず、焼き尽くすいけにえをささげたくはないのだ。」ここでもわかるように、私たちの人間的なものは、私たちにとって意味のない無価値なものをあげることに何も気にしません。しかし、この赤い新品のドレスは別物です。それをあげるためには、私は犠牲を払わなければいけなかったのです。

私の最後の言い分はかなり笑えます。「神様、あのドレスに合うように、赤とシルバーのイヤリングも一緒に買ったんですよ。」私は自分を哀れに思いながら、不機嫌気味に言いました。こう言えば、神様は私をかわいそうに思ってくれるだろうと考えていたのです。これまでの私の2回の主張とイヤリングについての言い分に対して、神様の答えは完全に沈黙でした。神様は、ドレス無しでその新しいイヤリングを持っていることが問題であれば、そのイヤリングも一

なぜ、神様、なぜ？

緒にあげなさいと私に伝えたのです。

神様は私たちと言い争いをすることはありません。強い思い、心での理解、霊で感じ取るもの、小さな声、耳で聞こえる声は稀ですが、ほとんどの場合は聖書箇所を通して、神様は私たちに教えてくれるのです。覚えておいてください。神様は、神様の思いに反したこと、つまり聖書の言葉に反していることへ、あなたを導くことはありません。しかし、“声”によって導かれる時には注意してください。数多くの声があるからです。聖霊によって、あなたの霊の中で確信があることを確認してください。

霊によって、私はルツ・アンさんがそのドレスを着ているイメージを見ました。しかし、私の人間的なものはそのドレスを手放したくなかったのです。なので、その新品のドレスをあげることが意味不明である理由を、私はいくつも神様に挙げ続けました。それでも神様は私と言い争うことはしませんでした。神様は言うべきことをすでに言っていたのです。もしあなたがこのストーリーの最初のことを覚えているなら、私はルツ・アンさんがどれだけ素晴らしい祝福であるかと考えていて、彼女のために何ができるだろうかと、私自身が神様に尋ねていたのです。神様は私にどうするべきかを伝えてくれました。しかし、霊において私はそれが正しいことであるとわかっていたにもかかわらず、私の頭(頭で全てを理解しようとする)では、それが気に食わなかったのです。あとは、私の決断次第でした。

第7章 - 頭に流されないで

結局、私はその決断を先延ばしにしました。これこそ、神様が私たちにしてほしいことから抜け出す時に私たちがよく使う方法です。これをすれば、あからさまに神様に反抗をしているわけではないと、私たちは考えるからです。実際のところ、決断を先延ばしにすることは不従順と同じことです。良い思いは、従順ではありません。神様のことばを基に取る行動こそが、従順ということなのです。

数週間が過ぎ、私はこの出来事についてすっかり忘れていました。しかし、神様は忘れていませんでした。私はルツ・アンさんのために祈り、なんと全く同じことを神様に聞いたのです。「神様、どのようにルツ・アンさんを祝福できますか？」そしてまた同じ光景が見えたのです。あの同じ赤のドレスのイメージが見えたのです。そしてついに私は神様に従っていないことに気が付き、私はあの赤いドレスを彼女にあげたのです。

私はそのドレスを彼女にあげると決断した後に、最初からそのドレスを買ったのは彼女にあげるためだったという事に気付いたのです。だから、そのドレスは3ヶ月もの間クローゼットの中で、袋から出していない新品の状態のままだったのです。もちろん神様はこれらのことについて私たちより先に全てを知っています。しかし、私たちは従順を通してそれを知ることができるのです。この全ては、1コリント2章で言われている「人間的なものは霊的なものを理解できない」ということから起きているのです。

なぜ、神様、なぜ？

「なぜ、神様、なぜ？」人間的なものは問いかけます。「なぜ私に犠牲を払わせたいの？なぜ簡単にはいかないの？なぜこんなにも難しくなければならないの？」ローマ8:6に書いてあることはつまり、人間的なものは感覚と頭で全てを理解しようとすることであり、そこには聖霊がないということです。そして、そのような思いは私たちの平安を奪ってしまうということも伝えているのです。

もし、あなたがこの本の主旨を忘れてしまっているなら、今一度あなたに言いたいことがあります。「なぜ、神様、なぜ？」といった”頭で全てを理解しようすること”こそが混乱を引き起こす原因の一つであり、私たちの平安と喜びを奪い取ってしまうものであるということの説明しようとしているのです。

人生を楽しみたいですか？そうであれば、頭で全てを理解しようすることを捨ててください！

第8章

“頭で全てを理解しようとする”に騙されないで

今の時代、騙されないための唯一の希望は、聖霊によって歩むことだけです。つまり、人間的なものではなく、聖霊によって導かれるということです。聖霊や聖書のことばよりも、感情や自分の考えによって導かれている人間的なものが強いクリスチャンを悪魔は探しています。「したい」から、「したくない」からといった理由で行動を取ってはいけません。私たちは、神様の王国のために、そして私たち自身を守るために、聖霊に導かれて行動を取る必要があるのです。

人間的なものは、全てを枠の中にはめ込むことが好きです。全てが理解できるように、全てを把握できているように、その全てを入れておく場所を見つけないと考えるのです。答えられていない質問を私たちは好みません。私たちの人間的なものを十字架にかけるために聖霊が使う手段の一つが、答えられていない質問なのです。答えがわからない時、私たちは神様に信頼するか、もしくは心配してその答えを解き明かそうとするかのどちらかです。

イエスに救われた後のクリスチャンを、成熟の場所へと連れて

なぜ、神様、なぜ？

行くことが聖霊の役割です。理解不可能なことが起きた時に、天のお父さんを信頼することができるクリスチャンこそ、成熟したクリスチャンです。だからこそ、神様は私たちが持つ質問の全てにいつも答えてくれるわけではないのです。なぜなら、神様は信頼という分野において私たちを訓練してくれているからです。しかし、ここで覚えておかなければいけません。それは、神様の計画全体に対して、あなたの考えはあまりに反抗しやすいことです。考えが新たにされ、霊的に考えることができるようになるまで、あなたの考えは人間的なままなのです。

ローマ8章では、人間的なものと聖霊の思いについて話しています。ガラテヤ5:17では、人間的なものと聖霊とは全くもって正反対のものであると書いてあります。そして内面のこの2つの力は常に拮抗し合い、衝突し合っていると書いてあります。

この章の最初の考えに一旦戻ってみましょう。人間的なものは、全ての事柄をどこか心地の良い綺麗な入れ物の中に納めておきたいと思うのです。そしてその綺麗な入れ物にしまっていることで、私たちが知らないことが存在しないようにしたいのです。

かつて、私たちのオフィスには長い郵便受けの列がありました。各郵便箱の1つ1つにスタッフの名前が書かれてありました。スタッフに指示やメッセージなどを送りたいと思ったら、私はその人の郵便箱の中にメモを入れていたのです。時々、あるスタッフに頼んだこ

第8章 - “頭で全てを理解しようとする”に騙されないで

とが終わっていなかったりすることがあり、再確認したところ、私は間違えて違う人の郵便箱にメッセージを入れていたということがありました。あるときは、誰の名前も書かれていない、使われていない郵便箱にメッセージを入れてしまっていた時もありました。

私が今ここで皆さんに教えようとしている教訓を、この郵便箱の出来事を通して神様が私に教えてくれました。それは、オフィスで違う郵便箱にメッセージを入れてしまうのと同じように、私の頭の中でも間違ったところに物事を入れてしまうことがあるということです。私はいつでも全ての事柄を、自分の頭のどこかにしまっておきたいと思っていました。なので私は、神様に委ねるべきなのにもかかわらず、全ての事柄を入れておくための入れ物を頭の中にしっかりと持っていたのです。私は“頭で全てを理解しようとする”で大きな問題を抱えていました。「なぜ、神様、なぜ？」と私は神様によく問いかけていました。なので、私は混乱と心配に満たされていて、喜びと平安に欠けている状態でした。

神様が私に示してくれたのですが、私は時々自分自身を騙すこともあったのです。というのも時々、ある問題が完全に解決したと想着って、私は自分が考えた通りに行動を取ったり、行動を取らなかったりしていたのです。失敗した後に私は気付いたのですが、自分の中では完全に解決していたと思っていたとしても、結局のところ私はただ間違ったところに問題を入れてしまっただけだったので

なぜ、神様、なぜ？

神様は箴言3:7を使って、私に真理を見せてくれました。”自分の知恵を過信してはいけません...”と書いてあります。そこで神様は、私は自分が思っているほど賢くはないということを教えてくれたのです。知能のことについて言っているわけではありません。私たち自身についての考え方のことを言っているのです。私たちが全てを理解しているという態度のことについてなのです。箴言3:4-6(JCB)には「神にも人にも喜ばれ、正しい判断力と英知を得たいなら、とことん主に信頼しなさい。決して自分に頼ってはいけません。何をすることも、主を第一にしなさい。主がどうすればよいか教えてくださり、それを成功させてくださいます。」と書いてあります。

神様がわかりやすくしてくれる時、そこには疑いも混乱もありません。しかし、もし論理的に頭で理解しようとしてしまうと、前に進まず、真理を本当の意味で知ることは決して無いのです。7節には、”自分の知恵を過信してはいけません...”とあります。

ある状況を対処するために考えられる方法は二通りです。一つは正しく、もう一つは間違っています。一つは霊的で、もう一つは人間的なものです。例えを挙げてみましょう。頭ではあまり理解できない個人的な預言を、ある人が私にしてくれたとしましょう。もしくは、頭では理解できない霊的な夢を私が見たとしましょう。私は天のお父さんのところに行き、「天のお父さん、この意味がわからない。理解したいので、どうか私に啓示を与えてください。私が理解できるように助けて。」とすることができます。

第8章 - “頭で全てを理解しようとする”に騙されないで

そして、頭では理解できないそのことを棚の上に置くのです。言い換えるならば、そのことについてはもう考えないのです。こうして私は神様の手の中に委ねます。もし、神様が私に理解を与える準備ができた時には、神様は、私の棚からそのことを取って、私に思い出させてくれるのです。ヨハネ14:26には、聖霊が物事を思い出させてくれるとあります。私が頭では理解できなかったことを、聖霊が啓示を通して私に教えてくれるのです。

「もし、頭で理解できない夢や預言があったら..」という、この同じ状況へのもう一つの対処法は、頑張って頭で理解しようということです。そのことについて、たくさんの人たちに話し、彼らの意見を聞いたりすることもできます。付け加えて、きっと彼らはそれぞれ違う意見をくれるので、さらに私は混乱するでしょう。そして自分で完全に理解したと思った時に、私は行動を取り始めるでしょう。しかし正直に言わせてもらえば、きっと私の心には平安が無いと言えます。その夢や預言、もしくはビジョンについて、私が“頭で考えた”ことに沿って何かを起こそうと頑張り続けるなら、私はきっと大きな間違いをしてしまうでしょう。

“頭で全てを理解しようとする”は混乱を引き起こすということ覚えておいてください。私は決して、問題について考えるべきではないと言っているわけではありません。しかし、何かについてじっくり考えて理解を得られるかどうか思いを巡らせることと、頭で完全に理解しようとして混乱に陥ってしまうことには大きな違いがあります。

なぜ、神様、なぜ？

混乱を感じた時、それは、間違った方法であなたが何かに対処しているという忠告だと認識してください。

第9章

混乱は喜びを奪い取る

この最後の章では、混乱は神様から来るものではないことを今一度はっきりとさせたいと思います。1コリント14:33では”神様は混乱の神ではない”と言っています。そしてコロサイ3:15(AMPC訳)では、平安を人生の中で決断をしてくれる”審判”にさせなさいと言っています。審判として、平安が私たちの中に入るもの、外に出るべきものを教えてくれるのです。

混乱は平安とは真反対のものです。”混乱”は全てが混ざっているものです。綺麗ではなく、ぐちゃぐちゃしていて、他のものと間違ってしまうようなもので、不鮮明なものです。”平安”は秩序です。何にも邪魔されず、内側からの満足感があり、穏やかなものなのです。もし平安が無ければ、その人は喜びを持つことはできません。ヨハネ10:10にて、盗人は盗み、殺し、滅ぼすために来るけれど、イエスが来たのは、私たちが”いのちを得て、人生を楽しむためである”とイエスは言いました。

何年前か前、私は神様を楽しみ、人生を楽しむことを決断したの

なぜ、神様、なぜ？

です。私がただ人生を生きるだけでなく、それを楽しむために、イエスが私のために死んでくれたのならば、私は人生を思い切り楽しむべきだと思ったからです。

ヨハネ15章では、永遠のいのち(life of abiding)についてのイエスの教えが記されています。永遠のいのちとは、神様の安息の中に入ることを意味しているのです。1節から10節まで、イエスは永遠のいのちについて話しています。そして11節(AMP訳から直訳)ではイエスはこう言っています。

「このことについて教えたのは、わたし(イエス)の喜びと歓喜があなたの中に留まることを願っているからです。そしてあなたの喜びと歓喜がたっぷり一杯になり、あふれるほどになるためです。」

ここではっきりとわかるように、イエスは私たちに人生を楽しんで欲しいと願っているのです。混乱はその目標を妨げようとしてくるのです。

最後に、混乱や不安の中ではなく、喜びの中で生きる決断をするようにあなたを励ましたいです。”頭で全てを理解しようとする”を捨ててください。私たちが霊的な勝利を得るたびに、私たちは人間的なものを手放すことが求められるのです。その人間的なものとは、”全てを頭で理解しようとする”なのです。そして、聖霊の思いは”神様のタイミングで、神様が答えを明らかにしてくれることに

第9章 - 混乱は喜びを奪い取る

信頼すること”なのです。

もしあなたが”頭で全てを理解しようとする”を手放すなら、
平安と喜びを刈り取るということを私は心から強く信じています。

救いの祈り

神様はあなたを愛していて、あなたと個人的な関係を持ちたいと願っています。もし、あなたが今までイエス・キリストをあなたの救い主として受け入れたことがないのなら、今受け入れることができます。ただ心をイエスに開いて、この祈りを祈ってください。

「天のお父さん、私はあなたに罪を犯してしまっていたことを認めます。私を赦してください。私をきれいさっぱり洗ってください。あなたの息子であるイエスに信頼することを約束します。イエスが私のために死んでくれたことを信じます。十字架上で彼が死んだ時、彼が私の罪を背負ってくれたことを信じます。そして、イエスが死から復活したことを信じます。今、私の人生をイエスに委ねます。

天のお父さん、赦しと永遠のいのちという贈り物を与えてくれてありがとうございます。あなたのために生きることができるように助けてください。イエスの名によって、アーメン。」

心からこの祈りを祈ったなら、神様はあなたを受け入れました。あなたを清めて、あなたを霊的な死の縛りから解放してくれました。

時間をとって以下の聖書箇所を読んでみてください。そして、これからの新しい人生の旅を神様と一緒に歩いていく中で、神様が話してくれるように祈ってください。

ヨハネの福音書 3章16節	コリント人への手紙I 15章3-4節
エペソ人への手紙 1章4節	エペソ人への手紙 2章8-9節
ヨハネの手紙I 1章9節	ヨハネの手紙I 4章14-15節
ヨハネの手紙I 5章1節	ヨハネの手紙I 5章12-13節

イエス・キリストとの関係の中で成長することを励まされるような、聖書に基づいた良い教会を見つけることができるように神様に祈り求めてください。神様はいつもあなたと一緒にいてくれます。1日1日、どんな時も神様はあなたを導いてくれます。そして、あなたに用意されている、いのちにあふれた豊かな人生を生きる方法を示してくれるでしょう!

ジョイス・マイヤーについて

ジョイス・マイヤーは、聖書の教えを分かりやすく実践的に語る、世界でも有数のメッセンジャーです。ニューヨークタイムズのベストセラー作家でもあり、著書は100冊を超えます。「あなたの人生をシンプルにする100の方法」、「決してあきらめないで!」、「思考という名の戦場」など、インスピレーションに溢れた代表作に加え、小説も執筆しています。また、数多くのメッセージをオーディオやビデオで幅広く提供しています。ジョイスのテレビ/ラジオ番組、「人生を毎日楽しむコツ」は世界中で放送されており、ジョイス自身も、カンファレンス講演のため、世界中を飛びまわっています。ジョイスと夫のデイヴは、4人の子どもを育て、現在は米国ミズーリ州、セントルイスを拠点としています。

お問い合わせ

ジョイス・マイヤー ミニストリー ジャパン

(+81) 0120-05-3922

info@joycemeyer.jp

tv.joycemeyer.org/japanese

いつ、神様、いつ？

いつ、神様、いつ？

神様のタイミングを信頼することを学ぶ

— —

ジョイス・マイヤー

Unless otherwise indicated, all scripture quotations
are taken from the:

SHINKAIYAKU BIBLE.

Copyright © 2004 by Inochi No Kotoba Sha
(used by permission);

the Japanese Living Bible (リビングバイブル)
Copyright© 1978, 2011, 2016 by Biblica, Inc.®
Used by permission. All rights reserved worldwide.

Colloquial Japanese (1955) (JA1955)

ALIVE訳

© 2014 Bible League International. All rights reserved.

Copyright © 2019 by Joyce Meyer
All Rights Reserved.

Translated and printed by Lifehouse Media in Japan.
<http://www.mylifehouse.com>

For more copies of this book and other resources
please contact the Joyce Meyer Ministries Japan
team at info@joycemeyer.jp .

【日本語版への追記】

著者の意向により、本書における聖句の引用にはAMP訳が用いられています。その性質上、どうしても既存の日本語訳では補い切れない表現が多いため、そのような場合には「～訳より一部強調」という形で、AMP訳からの直訳となる日本語を□内に補足しました。また、引用聖句全体を、翻訳者による日本語への直訳という形で対応している箇所もあります。

目次

まえがき	vii
1. タイミングと信頼	1
2. しかるべき時期	5
3. 定められた時	11
4. 使命	13
5. 油注ぎ(任命)	17
6. 聖別(使命のために取り分けられる)	27
7. 待つことに疲れていますか？	31
8. 忍耐してください！	37
9. 私の夢はいつ叶うの？	41

まえがき

私たちがいつも見守ってくれて、全てを知っている神様に私たちは仕えています。神様は決して驚くことはありません。物事が起きる前からすでに、神様はすべてを知っているのです。神様は、私たちが考える前から私たちの考えをすでに知っていて、私たちがまだ言葉にしていない言葉を神様はすでに知っていると、詩編139篇に書いてあります。

私たちの多くが、“信頼”という分野で成長する必要があります。そして、「いつ?」という大きな質問を静めることができるよう努める必要があるのです。

この質問はよく聞かれる質問です。なので、神様が恵みをもって私にシェアをしてくれた気づきを、この本を通して皆さんに伝えたいと思います。

私は人生の大半を、せっかちで、イライラしながら、失望しながら過ごしました。たくさん経験を通して、私は全てを知っている神様を信頼することを学んだのです。

ダビデ王が言った“私の時はあなたの力強い手の中にあります。”(詩編31:15の言い換え)と言う言葉に信頼しながら、神様の中で安らぐことで、あなたの霊が平安に溢れることを祈ります。

第1章

タイミングと信頼

”しかし主よ。私はあなたに信頼し、こう申し上げました。「あなただけが私の神です。私の時はあなたの手の中にあります。情け容赦なく追い立てる者の手からお助けください。」

(詩篇31:14,15 JCB訳)

この章で、詩篇の作者が言っていることは、つまり、彼が「神様が必ず救い出してくれる」ということを信頼していて、しかも「正しいタイミングでそれが起きる」と、神様を信頼していたということです。信頼というのは、私たちが「私の時はあなた(神様)の手の中にある」と言う必要があるということです。

信頼が私たちに求めることについて私は学んできました。それは「いくつかの質問は答えられない」という事実を受け入れることであり、自分の時を神様の手に委ねるということです。たとえ私たちがすべての答えを知っていなくても、神様がその答えを知ってくれていると信じるということです。私たちの人生の全てにおいて、神様は完璧なタイミングを用意してくれています。私たちはみんな、良いことが、“あとで”ではなく、“今”、起きて欲しいと願っています。

いつ、神様、いつ？

クリスチャンとしての人生で私たちが成長し続けていくにつれて、私たちは、“今すぐ”ではなく、神様の完璧なタイミングで物事が起きることを信じるようになっていきます。ヘブル11:1(ALIVE訳に一部強調)にはこう書いてあります。「(今,)信仰とは、願い事が必ずかなえられるという、不動の確信のことだ。また、どうやって起こるか分からない行く手にも、望みどおりのことが必ず待ち受けていると信じて、疑わないことである。」信仰はいつでもすぐに持つことができますが、必ずしも物事が”いつでもすぐに”明確になるということではありません。

神様を信頼するということは、なされるべきことを神様が”どのように”実現するのかを知らない状態で、また、“いつ”神様がそれをしてくれるのかを知らない状態で、神様を信頼するということが求められます。「神様は決して遅れることはない」ということを私たちはいつも言いますが、また、神様は早すぎることもありません。それはなぜなのでしょう？それは、神様がこの機会を使って、私たちの信仰を引き伸ばし、私たちがその待ち時間の間に成長するためです。

最近、私たちのパートナーたちの中で、予期していなかった税金を払うために、金銭面において神様の助けを必要としていた人たちがいました。税金の納付期限は4月15日でした。その夫婦は彼らに必要な奇跡を神様が起こしてくれることを信じて、“Life In The Word(神様のことばにあるいのち)”に特別献金を捧げました。すると、税金の納付期限の前日である4月14日。その日

第1章 - タイミングと信頼

には彼らは税金を支払うためのお金を確保していたのです。ではなぜ4月1日や5日ではなかったのでしょうか？なぜ神様はギリギリまで待つことがあるのでしょうか？

その理由は、神様は私たちに信頼についてのレッスンを教えているからなのです！信頼は生まれつきのものではありません。学ばなければいけないものなのです！信頼を必要とする様々な経験を通ることで、私たちは神様を信頼することを学んでいきます。神様の忠実さを何度も何度も目の当たりにすることで、私たちは自分自身を信頼することをやめて、少しずつ私たちは神様の休息の中に入り、神様に信頼を置くようになります。

このように見ていくと、タイミングというものが神様を信頼すること(を学ぶこと)においてどれだけ重要なものなのかが簡単にわかります。もし神様が、私たちが求めることをすぐにくれていたら、私たちが成長することは決してないでしょう。タイミングと信頼は双子のようなものです。お互いに協力して働き合うのです。

第2章

しかるべき時期

レビ記26:4(JCB訳)では「季節ごとに雨を降らせ...」と書いてあります。そしてガラテヤ6:9(ALIVE訳)には「だから正しい行ないに疲れ果ててはならない!あきらめずに歩み続けるなら、やがて祝福を刈り取る日が来るからだ!」と書かれています。そして、1ペテロ5:6(ALIVE訳)では、私たちが「神の力強い手の下で、謙虚にしているなら、ちょうどよいタイミングで、神は高く引き上げてくれる。」と書かれています。

では、しかるべき時期、しかるべき時とはいつなのでしょう。その”しかるべき時”というのは、“私たちの準備が整った”と神様が思う時であり、また”私たちに関わっている周りの人達の準備が整った”時、そして”神様の計画と合わさった”時であると私は信じています。神様は一人一人の人生のために、それぞれの計画を用意してくれていますが、神様は世界全体のための大きな計画も用意しているのです。

私はある時期、とても悩まされていました。神様のことばを教えるための油注ぎがあると確信していたのですが、自分のミニストリ

いつ、神様、いつ？

一で何も起きず、何も機会が与えられなかった時があったのです。私はとても長く待ったような気がしました。準備はできているとも思っていました。私はこれまでずっと神様に協力してきました。神様は、私を内側から大きく成長させてくれていたので、なぜ何も起きていないのかが理解できませんでした。「神様、今何を待っているのですか？私は準備がまだできていないのですか？」と神様に問いかけたのを覚えています。神様はこう答えました。「あなたの準備はできている。しかし、これからあなたと関係を持つ一部の人の準備がまだできておらず、色々と解決しないとイケない。今は、彼らの準備が整うまで待ちなさい。」

この話からもわかると思いますが、神様は決して無理に押し付けたり、要求したり、強要したりしません。神様は導き、案内して、促して、提案してくれるのです。神様の計画のために、私たちが自分の思いを神様に委ねるのは、私たち一人一人の責任なのです。時には、これはある人にとっては他の人より長くかかってしまう場合もあります。

なので、もし神様が、これから一緒に働く予定のチームのメンバーたちを成長させようとしているのであれば、もしかしたらその一部の人たちは、他のメンバーたちよりも先にもう準備ができているかもしれません。これは特に難しいことです。なぜなら、始まりの時点では、彼らはまだ神様の計画などを知らず、さらにはお互いのことすらも知らない場合がほとんどだからです。

第2章 - しかるべき時期

わかりやすい例を挙げてみます。独身の人が完璧なパートナーを祈っている光景を想像してみてください。神様は、実際にそのパートナーを用意しています。ただ、祈っている本人は、自分の知らないところで何が起きているのかわからないため、待ちくたびれてしまう時があるのです。その独身の人が祈り求めているパートナーが、聖霊の実の中で成長している、すでに成熟したクリスチャンで、フルタイムでミニストリーに呼ばれているような人であるなら、その独身の人はその「特別な注文」が届くのを忍耐強く待つ必要があります。これは時間がかかります。一晚では起こりません。しかし、神様は正しい人を用意しているのです。

デイブが私と出会うまでに時間はあまりかかりませんでした。というのは、彼の祈りは強い要求ではなかったのです。彼は神様に、「自分に合った奥さんが与えられるように。」と祈りました。「助けが必要なパートナーが与えられるように。」と彼は神様に祈ったのです。彼は約半年から1年かけて断続的に、その祈りをしました。そして私たちは出会い、5回ほどデートに行き、結婚したのです。この本が出版される1994年の時点で、私たちは結婚して28年になります。デイブは最初のデートの夜の時点で、結婚するパートナーは私だとわかっていたそうです。そのことについていつも言ってくれます。ただ、彼が5回目のデートまでプロポーズを待ったのは、私を怖がらせたくなかったからだそうです。

彼はわずか結婚3週間目で、私がいくつかの問題を抱えており、

いつ、神様、いつ？

大きな助けが必要だと確信したそうです。デイクは、祈りの答えをすぐに受け取ることができましたが、その代わり、私が神様の内で成長する間、私が過去の虐待の問題を克服する間、多くの困難を耐え忍ばないといけませんでした。

神様は、デイクが私との大変な年月を乗り越えることができるほど十分に成熟していると知っていたため、神様はデイクの祈りにすぐに答えたのです。デイクは多くの問題を抱えた誰かを助けるだけの強さを持っていました。彼は神様にそのように用いられたいと思い、そして神様はそのように彼を用いたのです。もし彼がうまく乗り越えることができなかつたり、もしくはもっと完璧なパートナーを望んだりしていたら、神様はデイクをもっと適切な時まで待たせたでしょう。私の人生の大きな問題を私が神様と一緒に乗り越えるまで。

ここで私が伝えたい事は、神様からの答えを待っている間に私たちが知っておくべきことは、私たちの祈りを答えるために、神様はいま他の人の問題を解決している最中なのかもしれないということです。それを信じることによって、待ち時間が耐えられるようになります。

それでは、金銭面に関する”しかるべき時”のことについて考えてみましょう。3ヨハネ1:2 (ALIVE訳)では、「おまえの栄える魂がごとく、他のすべての面でも成功と繁栄があり、身体的な健康を楽し

第2章 - しかるべき時期

んでいることを祈っている。」と書いてあります。“おまえの栄える魂がごとく…繁栄があり”というのは、“神様から来る繁栄は私たちの成熟度次第”ということを私たちに伝えてあります。この“おまえの栄える魂がごとく…繁栄があり”というのは、私たちがどれだけ素早く、自分の考えや思い、そして感情を、神様の思いに一致させていくかについて話しているのです。

成熟というのは、時間がかかるものです。どれくらい時間がかかるか、というのは、神様の計画と、そして私たちがその計画に沿ってついて行けるかどうかによって変わってきます。神様は私たちをとっても愛しているからこそ、十分に成熟してからでないとうまく扱うことができない繁栄を私たちに与えることはありません。なのでガラテヤ6:9で神様はこう言っています。「だから正しい行ないに疲れ果ててはならない!あきらめずに歩み続けるなら、やがて祝福を刈り取る日が来るからだ!」しかるべき時期は、神様が“私たちの準備ができている”と確信した時なのであり、私たちが“準備できた!”と思った時ではないのです。

たくさんの祝福を“すぐ”に与えられてしまうと、人は横柄になってしまいがちです。なので聖書では、まだ未熟な人やクリスチャンになっただけの人をリーダーシップに置くのは控えなさいと教えています。それは、彼らにまだ成熟さが足りず、プライドによってつけあがってしまう可能性があるからなのです。(1テモテ3:6から)

いつ、神様、いつ？

私たちの人生の全てのことにタイミングがあります。そして、神様の完璧なタイミングの中にいることはとても安心できることなのです。神様の一步先や一步後に行くのではなく、神様の完璧な思いとタイミングの中にあることができるように祈ります。

第3章

定められた時

使徒1:6-8で、弟子たちが終わりの時についてイエスに質問した時です。イエスは、その時に何が起ころのか、またそれがいつ起ころのかは、天の父の権威によって定められているので弟子たちが知ることはないと言いました。

ここでわかるように、弟子たちは未だにイエスが地上の王国を築き上げるのだと思っていたのです。弟子たちは、いつイエスが王国を建て直して、その王国をイスラエルに戻すのかを聞いたのです。

イエスが霊的な王国を築き上げようとしていること、そしてイエスの王国が弟子たちの中に存在することを、イエスが彼らに理解させることは当時はできなかったのです。聖書では、知恵のない知識は危険だと忠告しています。イエスがもし弟子たちに、いつ王国を築き上げるかを教えていたら、彼らがそれが何なのかすら理解できないために大変なことになっていたでしょう。

私たちは、「いつ」に関しての情報を欲しがります。神様が明らかにしてくれないのは、その知識を理解するのに十分な知恵を持

いつ、神様、いつ？

っていないからなのです。ハバクク2:3(JCB訳)では、「だが、わたしが計画しているこのことは、今すぐには起こらない。ゆっくりと、着実に、確かに、幻が実現する時が近づいている。遅いように思えても、失望してはならない。これらのことは必ず起こる。忍耐していなさい。ただの一日も遅れることはない。」とあります。一日も遅れることがないのです。

定められた時というのは、シンプルに言えば、神様が”正しい”と思う時なのです。神様の知恵と力に対して、私たちは自分自身と自分の考えを謙虚にして、「遅れることはない」と言った神様に信頼しなければいけません。

定められた時というのは、なんらかの理由ですでに決められた時という意味でもあるのです。予約があるような感じです。その予約の時間まで、私たちは入ることができません。それはそういうものです。神様は、定められた時を用意しているのです。言い換えるなら、神様は私たちの人生の色々な問題に関して私たちのために予約をしてくれているとも言えるでしょう。そのことが起こる時は決まっています、その時までには起こらないのだから、どうせなら落ち着いて、忍耐をもって待つ方が良いでしょう。

第4章

使命

神様がある人にあることをするように使命を与え、そのためにその人に油注ぎ(任命)をし、さらにその使命のために聖別される時に関わるタイミングは、多くの場合、3つの区切りがあります。3つの区切りの間は、長い時間がかかる場合がほとんどです。その人が大きなことのために神様に用いられる場合は特にです。この”大きなこと”というのは、必ずしも世界規模の大きさという意味ではありません。この意味は、多くの人たちに影響を与えるという意味です。この章と、次の2つの章で、それぞれの区切りを詳しく見ていきます。

神様がある人の人生に使命を与える時、それは突然のことかもしれないし、あるいは、その人がいつも知っていたことかもしれない。米国の歴代大統領の1人についてのある記事を読んだのを覚えています。まだ若い時から、彼は自分がいつか大統領になるということをすでに”知っていた”という記事です。

私の場合、使命が来たのは突然でした。ある朝、私がベットを整えていたら、私に神様の声が語りかけました。「あなたは、世界各国に行って、わたしのことばを教えることになる。そして、福音を録音し

いつ、神様、いつ？

たテープを使ったミニストーリーをすることになる。」そのことばは実際の音声として耳で聞こえたわけではありませんが、私の中ではとても大きく、クリアに聞こえたのです。その瞬間から、それが私の運命だと”知った”のです。それから私は、神様のことばを教えることに大きな強い思いを、時には圧倒的すぎるほど強い思いを持つようになったのです。

その日が来るまで、私は神様のことばを教える立場になるとは夢にも思っていませんでした。ただ、今振り返ると、私の人生の中で他にも明確な手がかりとなるようなものが見えてきます。私は昔から、言葉でも文章でも、とても明確にわかりやすく、理解がしやすい形で自分のことを表現する才能を常に持っていたのです。私が高校生の時さえ、誰かが私のところに助けを求めに来て、彼らの抱える問題について相談に乗っていたこともあったのです。その頃からすでに、私には、人々の人生を正しい方向にする手助けをしたいという強い思いがあったのです。高校の卒業式の際には、偉大なことを成し遂げるようにと、同級生たちを励ますために私は卒業生代表演説を頼まれたこともありました。専門家として人々を助けることができるように、心理学の学士を取るために大学に行くことまで真剣に考えていたのです。

私がダイブと結婚してから数年経つ頃、私は前よりも神様との関係が近くなっていたのですが、虐待されていた過去のせいで、私は未だに大きな問題に苦しんでいました。その頃には、すでに私た

第4章 - 使命

ちには3人の子供たちがいました。日曜日の夜、教会から帰って来て、子供たちが寝た後にベッドで休んでいた時のことを覚えています。安らかで、静かで暗い家の中で、私はその日に牧師が説教したメッセージを自分で説教したりしていました。説教壇には牧師ではなく、私がいるのです。なぜ私がそのようなことをしていたのか、当時は全くわからなかったのですが、今はわかります。

あなたの使命は、もしかしたらゆっくりと来たり、あるいは突然訪れるかもしれません。しかし、あなたが呼ばれた時には、あなたはすでに準備の中にいるのです。

第5章

油注ぎ(任命)

準備期間の間、油注ぎ(任命)は完璧なタイムカプセルの中にあります。油注ぎ(任命)というのは、神様が私たちに与えた使命を、私たちが成し遂げることができるように聖霊が助けてくれることです。聖霊は、私たちに教えて、正して、きよくして、助けて、そして元気づけてくれます。聖霊は、私たちが神様の目的のために用いられる正しい器になれるように整えてくれるのです。これを成し遂げるまでには、何年もかかるかもしれません。

モーセについて考えてみましょう。彼は、「奴隷の身分となっているイスラエルの人々を救い出す」という人生の使命を感じ取っていました。その熱意の中で、彼はカッと熱くなって、同胞のイスラエル人をいじめていたエジプト人を殺してしまいました。結果、モーセはそれから40年間、砂漠の奥地で過ごし、羊飼いについて学び、神様のことを知り、謙遜さを学んでいました。彼は経験を積んでいたのです。訓練、経験、そして謙遜さが無い人は、込み上げる熱意と神様のタイミングの違いを見極めることはできません。

いつ、神様、いつ？

油注ぎ(任命)は、私たちがどのように準備の過程を対処するかによって、私たちの人生にもたらされます。ヨセフの場合、飢饉から大勢の人々を救うためにエジプトの統治者となるように使命を与えられました。彼は少年の頃に、そのことについての夢を見ました。その熱意の中、彼はその夢について兄弟たちに話したのです。兄弟たちは、一番年下の弟に頭を下げるという考えに納得がいかなかったため、ヨセフを売り飛ばしてしまいました。

もちろんヨセフには悪気はありませんでした。彼はとても優しい少年だったのですが、夢の中で見たことを兄弟たちに話してしまったことについて言えば、彼は知恵を使うことができなかつたのです。神様は、ヨセフの人生に過酷な年月を与えました。しかし、その年月を通して、彼は知恵において訓練され成長しました。彼の通つたそれらの経験が、彼の人生の使命のために、彼自身を準備し、整えました。ヨセフは、自分の家族に裏切られた上に、彼が良くしてあげた、信頼できると思っていた友人からも裏切られてしまったのです。彼は嘘をつかれ、無実の罪を着せられ、罰せられてしまいました。彼は、自分の見た夢の実現を見るまで、長い年月を待たなければいけませんでした。

これに似たような、自分を成長させてくれる様々な経験を私たちもみんなしたことがあるでしょう。そのような経験が、私たちが神様に仕えるために私たちを整え、何があっても揺るぎなく立ち続けられるようにしてくれます。神様が私たちに困難をもたらすことはあ

第5章 - 油注ぎ(任命)

りません。悪魔がそうします。悪魔は私たちが破滅させようと考えていますが、神様がその試みを転換させて、私たちの益のために使ってくれます。ヨセフもこのことをよく知っていました。創世記50:20で、昔ヨセフにしてしまったことを後悔している兄弟たちに向かって、ヨセフは言いました。簡単に言い換えるところです。「悪意をもってあなたが私にしたことを、神様は良いことに役立ててくれたのです。」

私が神様のことばを教えるよう神様に呼ばれた時、私は家族や友人に否定されて、とても孤独で傷ついていました。誤った判断をされ、誤解されて、優しくない言葉をかけられてしまったのです。しかし、私自身も出しゃばりで、衝動的で、知恵のない熱意に溢れていました。短く言うと、私は自己満足な思いで満たされていたのです。あえて付け加えると、実際に準備の過程を通るまでは、全ての人がそうなのです。

もしあなたが「私は違う。私はそのような問題なんかないわ。」と思っているのなら、いつか痛い目に会ってしまうかもしれません!あなたが、神様の力強い手の中で謙遜になるまで、"あなたのしかるべき時は訪れないのです。(1ペテロ5:6より)

今振り返ると、これまでの私のミニストリーの進展は、私個人の成長とより大きな油注ぎ(任命)の進展が大きく関係していることが明確にわかります。

いつ、神様、いつ？

家でのバイブルスタディ(聖書勉強会)

最初の段階の一つの中で、神様はミニストリーの準備をするために、当時の高給料のフルタイムの仕事を辞めるように私に指示しました。そして、私はその指示通りに仕事を辞めました。この決断によって、私たちの収入は半分となったのです。神様はいつでも私たちの必要を満たしてくれていましたが、乏しい年月でもありました。

家でのバイブルスタディ(聖書勉強会)を始め、5年ほど続けました。最初の2年半の間は私が教えるのは週に1度でしたが、このグループが大きくなったので、朝のグループと夜のグループの2回に分けました。当時、デιβと私は大きな金銭的なストレスを抱えていたのですが、これらのグループから一切お金を受け取っていませんでした。

私たちには明らかな金銭的なニーズがあったのですが、私たちが教えていた各グループ25人ずつの人たちは、私たちのために献金をしようとは思っていませんでした。私にとっては大変だったのですが、このことが教えるための動機を浄化してくれました。それでも私は教え続けていたので、お金のためにやっていなかったのは明確です。その人たちに対して腹を立てないようにするのは、時には難しい時もありましたが、このようなことが起きている理由は、必要の満たしがこれからどこから来るのかを神様が私に知って欲しくなかったからだ、ということを私はやがて学びました。神様は「神様自身が全ての源である」と私にわかってもらいたかったのです。こ

第5章 - 油注ぎ(任命)

れは、逃げ出したくなるような難しい状況を辛抱強く忍耐するのと同じように時間がかかるものです。

多くの人は逃げ出してしまいます。彼らは神様から呼ばれているのに、彼らは準備期間を耐え抜こうという思いが無いために、呼ばれた人たちの中から選ばれることがないのです。マタイ 22:14(JCB)には「招待される人は多くても、選ばれる人は少ないのです。」と書いてあります。ある説教者がこの聖書箇所は、「多くの人が使命に呼ばれているが、使命に対する責任を受け取ろうとする人は数少ない。」という意味であると言っているのを聞いたことがあります。

2テモテ2:15(JCB訳に一部強調)では、私たちの使命に対する責任について詳しく書かれています。「あなたは、神から、『よくやった』とおほめのことばがいただけるように、熱心に励みなさい。神があなたの仕事ぶりを評価される時(試練によって試される時)、胸を張っていられるような働き手になりなさい。そのために、(正しく取り扱い、上手に教えることができるように)聖書が教えていること、意味することを学びなさい。」

リビングルームで25人の人たちに教えていた年月の間で、神様はミニストリーについて多くのことを教えてくれたのです。

いつ、神様、いつ？

棚に置く

そして、ミニストリーにおいて全く何もしなかった一年もありました。「家でバイブルスタディをやめなさい。待ちなさい。私は新しいことをする。」と神様が私に語ったのです。バイブルスタディをするという私の強い思いが消えてしまったのです！新しい赤ちゃんも授かり、私の状況も含めて私の心の中の全てが神様からのことばに一致したのです。

一方では、従うのに大変でした。バイブルスタディの人たちが毎週、小規模な献金を捧げ始めていたのです。だいたい15ドルから50ドル(1,500円～5,000円相当)でした。しかし1ヶ月ほど続き、その献金でとても助かっていたのです。そんな時、私は次のステップに進んでいくために、その必要の満たしの源から喜んで立ち去る必要がありました。

私の人間的な思いでは、従順さを選んで犠牲を払った後に大きなことが起きることを期待していたのですが、1年間何も起きなかったのです！どの扉も開かれなかったのです！色々な意味で、この時期が私の人生の中でも、もっとも葛藤した年の1つです。神様のことを見逃してしまったのでしょうか？私のビジョンは全て自分で作り上げてしまったものなのでしょうか？それが実現することはあるのでしょうか？何をすればそれが起きるのでしょうか？「よく聞きなさい。わたしこそ神であることを、よくよく知りなさい。」(詩篇46:10)

第5章 - 油注ぎ(任命)

ということを神様は私に何度も語り続けました。

神様のタイミングを待ち、動かないでいることは、時にはとても難しいです。その当時、今私があなたに伝えていることについて、私自身は全く理解ができていませんでした。当時を振り返れば、その時の出来事についてもっと明確な理解ができるものですが、私たちがその出来事を通して真っ只中ではなかなか理解ができないものです。時には、神様は人を柵の上に置き、そこに座らせたままにさせることがあります。何も起こっていないように見えますが、しかし聖霊の中ではたくさんのことが達成されているのです。全く何も見えていない時こそ、成長の時であり、微調整の時であり、きよめられる時であり、そして信じる時なのです。

次の5年

この”待つ1年間”の終わり頃、私とデイブは新しい教会に行き始めました。セント・ルイスで始まったばかりの教会でした。30人くらいの小さな教会でしたが、私たちの心の中には、神様が私たちがそこにいることを願っているというとても強い確信がありました。しばらくしてから、私はライフクリスチャンセンター教会で、木曜日の朝に女性のための集まりを始める機会を与えられたのです。この集まりは、私のミニストリーの次の段階として神様によって定められていたものでした。そして、これは神様のタイミングだったのです。

いつ、神様、いつ？

神様が祝福してくれたので、この集まりは成長していきました。ピーク時では、毎週400人の女性たちが参加しました。最終的には、私はその教会でフルタイムとして働き、副牧師になったのです。そして、その教会がセント・ルイスで放送された私の最初のラジオのプログラムのスポンサーをしてくれたのです。

その場所での5年間で、私はたくさんの重要なレッスンを学びました。学んだことの一つは、どのように権威に従うかです。権威の下での経験がない限り、権威を持つ存在になることはできません。従うということは、ただの行動ではありません。態度です。言われたことをする決断をすることはできるかもしれませんが、従う態度というものはあなたの内側で生まれなければいけないものです。特に、私のように意志の強い性格であればなおさらです。

時間をかけて、私は多くの人たちと共に働くことや様々なタイプのミニストリーの中で良い機能を果たすことを学びました。また、私は“待つこと”についてもさらに多くを学んだのです。神様は、私がやりたいと思うことをたくさん私の心に置いてくれました。しかし、正しいタイミングではなかったので、私はもっと待ち、もっと学び、もっと成長する必要があったのです。

この時期は素晴らしい年月でしたが、笑いと涙、興奮と落胆に溢れた大変な年月でもありました。これら全てを通して、ライフクリスチャンセンターの牧師たち、リックとダナ・シェルトン夫妻は、デイ

第5章 - 油注ぎ(任命)

ブと私にとって親友となりました。今でも親しい仲です。私たちはみんなと一緒に成長したのです。

人々が一緒に成長する時、もし彼らがお互いのことを諦めずにいれば、彼らはどんな時でも耐え抜いていける強く一致した友人関係になっていくということを私は学びました。こういう言い方もできます。あなたの中から、めっちゃうちゃなものや悪いものが取り除かれていくことで、あなたは周りの人たちと一致して調和されていくのです。

ライフクリスチャンセンターが1,200人の集まりに達した時、スタッフたちは新築の綺麗な建物に移動する準備をしていました。全てが勝利と興奮で溢れていた時、再び神様が語りました。

第6章

聖別(使命のために取り分けられる)

“Life In The Word(神様のことばにあるいのち)”の始まり

神様が私に最初に語りかけた時のことを覚えていますか？”使命”が来たのは、私がベッドを整えていた時でした。神様が「あなたは色々な場所に行き、ティーチングを録音した大きなミニストーリーをする。」と言いました。準備期間の年月の中で、小さい規模ですが、それは実現していました。しかし、ビジョンは他のエリアでますます大きくなっていったのです。

ある日の祈りの中で、ある聖書箇所の中にあることばを強く示されました。ピリピ2:16です。その中にこう書かれています。「世の人々の間で(全ての人々へ)、いのちのことばを高く掲げ...」(JCB訳に一部強調)その日に、ラジオを使って国全体に手を差し伸べていくというビジョンを受け取ったのです。

このビジョンが来た時点では、ラジオの放送はしていませんでした。出張には少し行っていました、さほど遠くないところまででした。私の心の中にはもっと多くのものがあったのですが、神様がどうかして私が大好きなライフクリスチャンセンターでの仕事に、こ

いつ、神様、いつ？

の全てをうまく当てはめてくれるだろうと私は考え続けていました。しかし、神様には違う計画があったのです。

箴言16:9(JCB訳)に"人は心に計画を立てます。しかし、それを確かなものにするのは神様です。"と書いてあります。私には計画がありました。私にはそれが神様の計画だと思っていましたが、神様はまた語り、「ここでの仕事は終わった。あなたは自分のミニストリーと共に東西南北に行きなさい。」と語ったのです。ライフクリスチャンセンター以外の場所で"Life In The Word(神様のことばにあるいのち)"の集まりを行うことや、似たような集まりが他の場所で始まっていくことを私は聖霊の中で見ました。長い間この考えと戦っていたのですが、神様がやりなさいと言ってるのだとついに確信したのです。同時に、もし私が間違えていたら、この過去10年間で表すもの全てを失うことになるということもわかっていました。それは怖いことでした！

最終的に私は神様に従い、教会での仕事を辞めたのです。神様が私を"使命"へと聖別しているということ、神様が私に示してくれたのはこの移行期間でした。今までの全てはどれも素晴らしかったのですが、それらは全て準備だったのです。ここまでの全ての段階で、私の責任が増えるにつれて、神様からの油注ぎも増し加えられました。

使徒13:2では、クリスチャンたちが一緒に"賛美をしていた"時

第6章 - 聖別(使命のために取り分けられる)

に、聖霊が彼らに、神様から呼ばれている使命のために、“今”パウロとバルナバを聖別するように言いました。その時まで彼らはミニストリーの中で多くの実を結び、祝福をもたらしていました。しかし、神様のタイミングで、“今”が聖別の時であると神様は伝えたのです。

“神様のタイミングで、神様があなたに与えた夢やビジョンが実現する”ということをおあなたに励ましたいです。もし、神様があなたの人生にある特定の使命を与えているのであれば、それは神様のタイミングで実現するのです。全ての段階で神様と一致すること、そして、使命、油注ぎ(任命)、使命のための聖別は長い年月をかけて起きることを覚えていてください。全ての小さなことに忠実であるように。あなたの時は神様の手の中にあるのです。

第7章

待つことに疲れていますか？

もし今まであなたが長い間待っていて、たいした進展が何も見れていないのであれば、きっとあなたはもう待ちくたびれていることでしょう。そんなあなたには、“待つこと”に対して新鮮な態度を取ることを励ましたいです。マルコ4:20-27の中で、地面に種を蒔いて秋の雨と春の雨を待つ農夫のように、私たちは忍耐強く待つべきだと聖書は語っています。続いて書いてあるのが、種が芽を出すのを待つ間、この農夫は寝ては起きて、寝ては起きてを繰り返すと、やがて芽を出したということです。そして、この農夫はどのようにして芽が生えるかは知らないのです。

この聖書箇所を通して私が神様に教えられたことは、実現されてほしいことを待ち望みながら、今与えられている人生を生き続けるということです。私たちは次から次へと何かを生み出そうと一生懸命になってしまい、今手元にあるものをしっかり対処せず、楽しむことができません。

私は神様からビジョンを与えられました。しかし、そのビジョン

いつ、神様、いつ？

が実現したのは、私とそのビジョンを受け取ってから10年の月日が経ってからでした。この10年の間で、私は神様のタイミングではない時に頑張って実現させようとして、たくさんの喜びを見逃していたと思います。

5人の子どもを持つ女性が妊娠したとしましょう。もしその彼女が妊娠1ヶ月目に赤ちゃんを産もうとしていたら、かなりおかしな話です。もし、彼女が新しい赤ちゃんを産もうと必死になるあまり、彼女が他の5人の子どもたちの育児をちゃんとしてあげなければどうでしょうか？このシナリオの愚かさが目に見えてわかります。しかし現実では、人々が他の状況で同じことをしてしまうことがよくあるのです。

あなたがいたい場所に到着するのを待っている間、今いるところで楽しんでください！先ほどの農夫の「起きては寝て…」について聖書に書いているのは、あの農夫は最高の菜園が出来上がるのを待っている間、ごく普通の日常生活を送っていたということを言っているのだと私は信じています。

ある日、ある牧師が私たちを混雑した空港に迎えに来てくれました。空港は非常に混雑していました。エスカレーターにも行列、レストランにも行列です。どこに行っても、私たちは待たなければいけないような状況でした。その牧師が少しイライラしているのに私は気づきました。そして突然、彼は私の方を向いて「お気づきでしょう

第7章 - 待つことに疲れていますか？

が、私は待つのが苦手です。」と言いました。

良い待ち方を学んでいなければ、結果は明確です。態度が感情的になることもそうですが、その影響は私たちの身体にも現れるのです。待つということは人生の大きな一部です。もし待つということでもいつもイライラさせられているのであれば、それは身体に大きなストレスをもたらし、病気になってしまう場合もあるのです。待つことが苦手だったこの牧師は、その当時身体的に弱っていて、とても病気がちでした。医者からは長年のストレスが原因だと言われていたそうです。待つことに対して新しい態度を持てば、待つことはあまり難しくなくなるでしょう。

事実、私たちの人生は、受け取ることよりも待つことに時間をもっと費やします。待ち望んでいたものを受け取った後、私たちはすぐに何か他のものを待ち始めるのです。もし私の言っている意味がわかるのであれば、“待つということは人生の大きな一部である”ということが理解できるでしょう。

例えば、昇給すれば、その後には次の昇給を待つでしょう。子どもが生まれるのを待てば、次には、その子どものオムツが外れることを待ち、さらに次はすぐに、その子どもが自分でパンツを買い物できるようになることを待つでしょう！マイホームをを買うのに待ち、そして、もう待つ必要がない、手に入れたマイホームのための家具を買うために待つのです。そして、あなたが待ち続けたマイホーム

いつ、神様、いつ？

と家具を綺麗にするために、家政婦を雇うために待つのです。私の言いたいことがわかるでしょうか？

待つことがあなたの夢を実現してくれることに気付いて、待つことを楽しめるようになってください。“上手に待つ”ことがあなたの夢を実現させると言うべきでしょう。その実現はもちろん神様から来るのですが、待つことはそれを運んできてくれる配達係のようなものです。ある人は待ち始めるのですが、配達係が着く頃には、その人はもう違うところに行き、他のことを始めてしまっているのです。きっとその人は、その始めた”他のこと”の実現をさえ見る前に他のところに行ってしまうでしょう。

多くの場合、せっかちな人たちは素晴らしいことの実現を見る時にはもうそこにはいません。なぜなら、素晴らしいことは成熟するまでに長い時間がかかるからです。私の夫であるデイブはよくこう言います。「早くて、壊れやすい。時間はかかるが、強い。」もし、忍耐力が無い人と待つのが苦手な人が一緒になっても、おそらく長くは続かないでしょう。しかし、もし神様の完璧なタイミングを待ち望むのであれば、正しく組み合わされて、とても長い時間続くでしょう。

時に、私たちはミニストーリーの中で”流れ星”を見る時があります。それは、唐突にどこからともなく現れて、一夜にして世界中に知られるような人たちです。多くの場合、その理由は、彼らのために扉を開いてあげられる能力がある人たちのそばに彼らが入ることが

第7章 - 待つことに疲れていますか？

できたからです。彼らのミニストリーが長く続くのは稀です。人格や品性は”待つ”という葛藤の時間の中で形成されるものなので、彼らは金銭面や道徳面で問題にぶつかることが多いです。彼らは人格や品性を養う時間を通らなかったのです。

もし、どうにかすべての葛藤や困難を避けて一夜で現れた人は、一般的には長続きしません。マルコ4:5-6に、一晩で芽を出した種は、暑さが来ると枯れてしまうと書いています。私たちがつい待つ時間を敬い感謝するようになった時に、神様は本格的に動いてくれるのです。たとえ今何が起きているのか私たちが見えてなかったとしても、私たちが後々幸せにしてくれることが、今日の見えないところで起きているのです。

第8章

忍耐してください!

ヘブル6:12では、私たちは信仰と忍耐を通して約束を相続すると書いてあります。相続をするために、私たちの努力は求められていません。定められた時まで待つことだけが求められています。例えば、ある親戚があなたに遺産を相続してくれるということをあなたが信じているとします。しかし、それを相続するためには、あなたは忍耐をもって適切な時まで待たないといけません。信仰と忍耐はパートナーです。望んでいる結果をもたらすために、お互いに働き合うのです。

ヤコブ1:2,3では、“どんな種類の困難や試練に直面しても”、信仰が忍耐を引き出すことを知って私たちは喜びに溢れるべきであるということをお話しています。そして、忍耐が十分に身につけば、私たちは“完全に成長した、どんなことにもびくともしない”強い人になれると言っています。素晴らしい聖書箇所ですね!

この聖書箇所の中の“忍耐”はギリシャ語でフポモネといい、「試練の中でのみ成長する忍耐」という意味です。自分が欲しているも

いつ、神様、いつ？

のを待たなければ、そしてまた、待っている間、欲しくないものを耐えなければ、私たちはどのように忍耐を成長させることができるでしょう？

試練や困難がある時、もし”十分に忍耐を働かせるなら”、私たちは成長します。成長することができるのです。(ヤコブ1:4)抵抗することや苦味を持つこと、また全ての困難から逃げ出すことは忍耐を生み出しません。ヤコブ 1:4は、忍耐が十分な仕事をした時に、私たちは完璧に成長することができ、どんなことにもびくともしない(もしくは”足りないものがない”{KJV訳からの直訳})人になることができると言っているのです。これを理解するのは簡単です。完全に忍耐が強ければ、その人はどんな状況でも、平安と喜びに溢れることができるのです。

私はもちろん忍耐に関して完璧ではありませんが、かなり成長はしてきました。私はとてつもなくせっかちで、待つのが苦手だった時があります。そして、”神様は変わることはない”ということがやっとわかった時に、私は、私自身が変わって神様のやり方に従うと決断したのです。神様は、信仰と忍耐によって私たちは受け取ると言っています。なので、私は、自分の中で忍耐を成長させようと決めたのです。忍耐の中で私は成長し、そして同時に、平安と喜びを得たのです。

忍耐は聖霊の実の一つです。忍耐は、まだクリスチャンでない人

第8章 - 忍耐してください!

にとって、力強い証拠です。忍耐は筋肉みたいなものです。もっと使えば、もっと強くなるのです。そして最終的には、忍耐が完全に成長し、あとはただ、忍耐を必要とする分野でコンディションを保つための運動をするだけでよくなるのです。その分野とは、様々な予想外なことが起こる時です。例えば、歩くのが遅い人が自分の前をゆっくり歩く時だったり、高速道路で車がエンストしてしまった時であったり、自分の人生で何が起きているのかわからない時だったり、もしくは必要な答えが全然来ない時です。

私たちがこれらの状況を通っている最中はとても難しいのですが、これら全てが最終的には私たちを助けることになるのです。これが理解できれば、私たちは忍耐に対して新しい感謝を持つことになるでしょう。ヘブル12:1 (ALIVE訳)には、「神の用意された特別のコースを、根気強く走り抜こうではないか!」と書いてあります。全てのレースにゴールがあります。あなたは必ずゴールにたどり着けますが、ヘブル人への手紙は”どのように”レースを走るかについて話しているのです。

自分自身に忍耐する

自分自身に忍耐することによって、忍耐のライフスタイルの基礎となる部分を築き上げ始めることをあなたに励ましたいと思います。間違いを犯してしまった時に、神様からの憐れみを受け取り、ゴールに向けて押し進んでください。あなたが自分の弱点を克服して

いつ、神様、いつ?

いる時に、自分自身に忍耐してください。せっかちはイライラを生み出します。そしてイライラは、私たちを不安定な感情へと突き動かします。そして結果として、もっと間違いをしてしまうのです。

人はプレッシャーの下でよりも、忍耐の下でより急激に成長していきます!だからこそ、忍耐に寛大でいてください。その忍耐を、あなた自身や他の人に対して、気兼ねなく与えてください。あなたはそれがとても喜ばしいことだと感じるでしょう。ルカ8:15(AMP訳からの直訳)には、「忍耐をもって実を結ぶ」と書いてあります。

第9章

私の夢はいつ叶うの？

あなたの夢は今、プロセスの最中にあります！今、キッチンで調理されているのです。“The watched pot never boils.”（[直訳]じっと見られている鍋は沸騰しない。つまり、“待つ身は長い”や“焦りは禁物”という意味）ということわざを聞いたことがあるでしょう。シンプルに、毎日を楽しむことをあなたに強く励ましたいです。自分の役割をしっかりとこなしてください。しかし、神様の役割をしようとしなくてください。

完璧なタイミングがあるのです。それは神様のタイミングです。それが“いつ”なのかは、神様だけが知っているのです。神様を信頼することで神様を敬って、そして、夢の実現までの道のりの間、その旅を是非楽しんでください！

“いつ”それが来るのかは誰も知りませんが、正しい時に来るということに確信を持ってください。

信じて、そして神様の休息の中に入ってください！

救いの祈り

神様はあなたを愛していて、あなたと個人的な関係を持ちたいと願っています。もし、あなたが今までイエス・キリストをあなたの救い主として受け入れたことがないのなら、今受け入れることができます。ただ心をイエスに開いて、この祈りを祈ってください。

「天のお父さん、私はあなたに罪を犯してしまっていたことを認めます。私を赦してください。私をきれいさっぱり洗ってください。あなたの息子であるイエスに信頼することを約束します。イエスが私のために死んでくれたことを信じます。十字架上で彼が死んだ時、彼が私の罪を背負ってくれたことを信じます。そして、イエスが死から復活したことを信じます。今、私の人生をイエスに委ねます。

天のお父さん、赦しと永遠のいのちという贈り物を与えてくれてありがとうございます。あなたのために生きることができるように助けてください。イエスの名によって、アーメン。」

心からこの祈りを祈ったなら、神様はあなたを受け入れました。あなたを清めて、あなたを霊的な死の縛りから解放してくれました。

時間をとって以下の聖書箇所を読んでみてください。そして、これからの新しい人生の旅を神様と一緒に歩いていく中で、神様が話してくれるように祈ってください。

ヨハネの福音書 3章16節	コリント人への手紙I 15章3-4節
エペソ人への手紙 1章4節	エペソ人への手紙 2章8-9節
ヨハネの手紙I 1章9節	ヨハネの手紙I 4章14-15節
ヨハネの手紙I 5章1節	ヨハネの手紙I 5章12-13節

イエス・キリストとの関係の中で成長することを励まされるような、聖書に基づいた良い教会を見つけることができるように神様に祈り求めてください。神様はいつもあなたと一緒にいてくれます。1日1日、どんな時も神様はあなたを導いてくれます。そして、あなたに用意されている、いのちに溢れた豊かな人生を生きる方法を示してくれるでしょう!

ジョイス・マイヤーについて

ジョイス・マイヤーは、聖書の教えを分かりやすく実践的に語る、世界でも有数のメッセンジャーです。ニューヨークタイムズのベストセラー作家でもあり、著書は100冊を超えます。「あなたの人生をサンプルにする100の方法」、「決してあきらめないで!」、「思考という名の戦場」など、インスピレーションに溢れた代表作に加え、小説も執筆しています。また、数多くのメッセージをオーディオやビデオで幅広く提供しています。ジョイスのテレビ/ラジオ番組、「人生を毎日楽しむコツ」は世界中で放送されており、ジョイス自身も、カンファレンス講演のため、世界中を飛びまわっています。ジョイスと夫のデイヴは、4人の子どもを育て、現在は米国ミズーリ州、セントルイスを拠点としています。

お問い合わせ

ジョイス・マイヤー ミニストリー ジャパン

(+81) 0120-05-3922

info@joycemeyer.jp

tv.joycemeyer.org/japanese